

(誤)

2024年10月4日修正

[3] 四国外貨物流動の推移

1. 概要

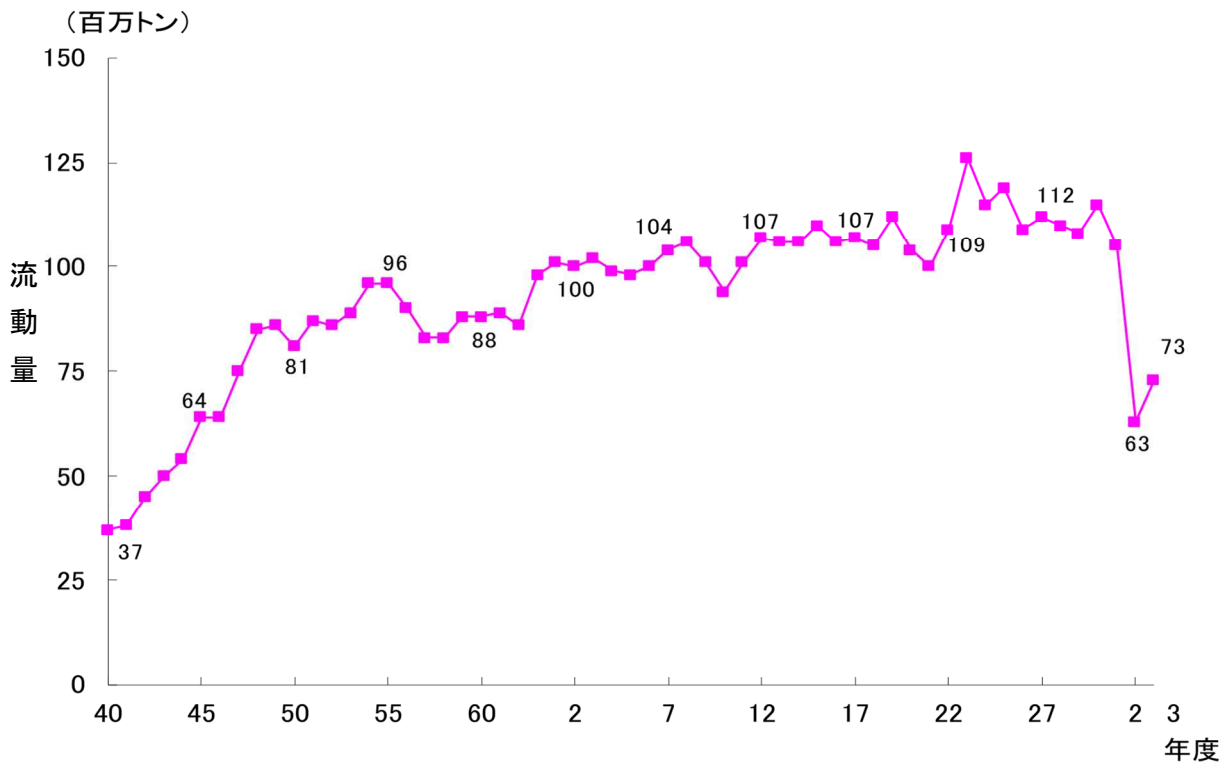
令和3年度の四国外貨物流動量は、前年度比40.30%減の6,277万トンとなった。

輸送機関別流動量で見ると、鉄道72万トン、自動車1,552万トン、海運4,654万トンとなり、それぞれ前年度比9.3%減、70.5%減、10.0%減とすべて前年度を下回った。また、輸送機関のシェアは、鉄道は0.4ポイント増の1.1%、自動車は25.4ポイント減の24.7%、海運は24.9ポイント増の74.1%となった。

品目別流動量で見ると、第1位の「鉱産品」が前年度比6.3%減の1,755万トン、第2位の「化学工業品」が同26.8%減の1,659万トン、第3位の「金属・機械工業品」が同35.0%減の1,002万トンとなっている。その他では、「軽工業品」が同68.9%減の546万トン、「雑工業品」が同71.1%減の169万トンとなっている点が特徴のある動きと言える。

全国地域別に見ると、第1位の「近畿地方」が2,001万トンと全体の31.9%を占めており、第2位の「中国地方」が1,505万トン(同24.0%)、第3位の「関東地方」が1,116万トン(同17.8%)、第4位の「九州地方」が934万トン(同14.9%)の順になっている。

四国外貨物流動の推移



(正)

2024年10月4日修正

[3] 四国外貨物流動の推移

1. 概 要

令和3年度の四国外貨物流動量は、前年度比17.0%増の7,344万トンとなった。

輸送機関別流動量で見ると、鉄道71万トン、自動車2,272万トン、海運5,001万トンとなり、それぞれ前年度比0.7%減、46.4%増、7.5%増となった。また、輸送機関のシェアは、鉄道は0.1ポイント減の1.0%、自動車は6.2ポイント増の30.9%、海運は6.0ポイント減の68.1%となった。

品目別流動量で見ると、第1位の「化学工業品」が前年度比16.2%増の1,927万トン、第2位の「鉱産品」が同8.7%増の1,907万トン、第3位の「金属・機械工業品」が同22.5%増の1,228万トンとなっている。その他では、「軽工業品」が同27.3%増の695万トン、「雑工業品」が同37.8%増の234万トンとなっている点が特徴のある動きと言える。

全国地域別に見ると、第1位の「近畿地方」が2,458万トンと全体の33.5%を占めており、第2位の「中国地方」が1,753万トン(同23.9%)、第3位の「関東地方」が1,273万トン(同17.3%)、第4位の「九州地方」が982万トン(同13.4%)の順になっている。

四国外貨物流動の推移

